



出会い

第七十一号 令和二年一月

健康道場
サラ・シャンティ
神戸市灘区八幡町
3-6-19
T&F : 078-802-5120

カタカムナ時代の到来とは

清水 正博

夢が実現しました。阪急六甲の書店に吉野信子先生の著書「カタカムナの時代が到来しました」が出版早々並べられたのです。カタカムナがこんなに早く社会的認知を得られたなんて夢のようなことです。次の夢はカタカムナが発見された金鳥山と六甲山が東経135度の聖地だったことが知られること。2万年近い平和を継続させた縄文文明の根っこにカタカムナがあったことが日本語と日本文化を生み、日本人の美意識と霊性を復活させ、世界を平和にするツールとなると思います。

ニュースを見ていると悲惨な事故や犯罪が多くてウンザリしますが、その元には戦後70年のセックス、スクリーン、スポーツのアメリカ型文化の影響があり、物が溢れるバブル時代を満喫し何でも世界一と驕り高ぶった時代を体験させられた後遺症でしょう。同じことが縄文から弥生への移行時でも大陸各地からの移民で起こり、ユダヤ文化の影響を受けました。その物質中心の価値観から目覚めよとばかりに1995年に阪神大震災が起こり、2011年は東日本大震災と大津波も来て原

発災害まで起こりました。その後も多くの被災が続くにもかかわらず、今なお環境破壊型の政策を続けていますから、首都直下型地震、東南海地震、津波が到来しても仕方がないのでしょうか。

しかし、即位礼正殿の儀の時、世界中の人々を驚かせたエンペラーウエザーの奇跡には感動しました。朝からずっと悪天候が続いていたのに、高御座から天皇陛下が現れた一瞬に晴れ渡り、虹が現れ皇居をまたぎ、富士山が初冠雪にみまわれ、台風20号が消滅し21号は日本をそれ、天照大神の御神業だと話題になりました。このように令和時代は奇跡が起こり無事が続くことを期待しています。その為にもカタカムナが持つ潜在物理学の精神が広がって欲しいのです。

一方私の72歳の節目の時に、万葉集から選ばれた令和というカタカムナ時代の到来に相応しい浩宮徳仁親王が天皇陛下になられました。西洋的価値観と中国の古典から卒業し、縄文時代の精神文化と霊性を復活せよとばかりに吉野先生の著書「カタカムナの時代が到来しました」が全国の書店に並んだのですから、それは大いなる存在の思いであり、日本のために大変意味深いことなのです。

定年後は陶芸、ギターと歌の趣味三昧の人生を謳歌しようと思っていたのに、阪神大震災のおかげで私の人生は急変し、大いなる存在なんて信じていなかった私にサイババから神秘体験が与えられ、阪急六甲の駅前に「六甲を創造する」なんて名のビルを建て、「出会いの広場サラ・シャンティ」を

始めたので、「清水さんは怪しいことを始めた？」とご近所様から思われたようです。しかし、子供の時から御天道様という存在に見守られている意識はあったので、その導きのお陰で、以来23年、会報「出会い」を発行してきました。

サラ・シャンティの2階の窓ガラスには「出会いの広場「健康道場」と書きましたら、オーム真理教事件直後でしたので、「出会い」とか「道場」という言葉は怪しいから消してくれと云われました。私は「出会い」があつてこそその人生であり、古武道をする者にとつて「道場」は大切な言葉ですから、怪しく思うような人は来なくて良い、理解できる人だけ来ればよいと思ってました。おかげで気持ちの通じる人だけが集まる出会いの場としての理想的な展開が起こり充実した活動が始まりました。

16才のグレタ・トゥーンベリさんが地球救済のためスエーデンに現れたのも意味があります。世界中で予測されたように気候変動や異常気象が起こっているのは、西洋型物質中心の価値観による環境破壊だからです。北欧出身の彼女だから日本の霊性豊かな自然感や多神教的宗教観である山川草木悉皆成仏の精神文化へと連携していく流れが生まれるのです。令和時代の今、彼女の主張に応え世界をけん引する現象が様々に起こっている事に気づかねばなりません。

どうしてサラ・シャンティがこんな役目を演じているのか、今一度思い返してみたいと思います。高校卒業の時にどうしてもメキシコへ行くことと思い、「スペイン語を勉強しなければ僕の人生はない」な

どと云つて親を説得したにもかかわらず、メキシコに着いたら、ヒッピーの日本人画家二人と出会つて親しくなり、既成社会の伝統や制度、価値観を否定するカウンターカルチャーを教えられ、中南米のキリスト教植民地支配、アメリカの黒人奴隷と人種差別の現実を知らされ、世間の常識を疑うようになり、ヒッピーの集まるNY市グリニッジ・ヴィレッジやSF市ヘイト・アッシュベリーに立ち寄り、新しい哲学、宗教や魂のムーブメントを体験させられました。これらも運命の悪戯だったのでしょうか。

一方で私は歯科医療業界に30年以上勤め、医師会や医療団体の力によって保険点数や医薬品の保険採用が決まる薬事法の裏を知り、利権団体の力で動く金権社会だと判りました。戦後のGHQによる洗脳だけではなく、学校で教える世界史・日本史のウソ、情報管理されるマスコミの真実、増え続けるガン患者に抗がん剤で命を奪う医療、医療業界の利権を守る健康情報にだまされても怒りもせず、物質文明の洗脳だと気づけない人が多いのが現状ではないでしょうか。

魂と意識の運動があれば細胞の働きも変わり自然治癒力が働いてどんな病気も治せると以前から私の実践例を紹介してきました。医学はそんなことを否定しますので、ガンになったら死んで当たり前と信じる人の数は減りません。この様々な問題を解決するには、まず物質中心の西洋的価値観で支配されている生き方から抜け出すしかないと思つて、カタカムナに取り組んだのです。日本人の霊性と精神を復活するにはカタカムナが必要

だと直感したのです。

私の人生がなぜこうなったのか小学校の頃の事を思い出します。先生は私が教室でボーっとしているから成績が悪いと伝え親を心配させました。私は授業が退屈だからボーっと外を見ていたので、その証拠に兄からお前は好きな事ばかりして羨ましかったと云われるほどよく外で遊びまわつてたようです。大人になつても相変わらず好きな事をして今やそれが仕事になっていきますから、ボーっとするのも瞑想する習慣に繋がつたのでしょうか。

そのこと思い出すのは12年間バスにも乗らずに六甲山の中腹にある学校へ登校したことです。阪急御影駅から神大付属小・中校のある赤塚山へ、芦屋朝日が丘にある甲南高校へも歩いて通い、この登校・下校のおかげで足腰を鍛えられ、フルのトライアスロンを完走できる気力・体力が養われたのでしよう。毎日歩くことは瞑想の時間を持つことと同じで、人生で役に立つ事だと自覚があつたからこそ今があるので、この点だけは厳しい教育ママだった母のお陰だと感謝しています。

そして37歳から海で4キロ泳ぎ、180キロを自転車で行き、フルマソンに挑戦し、有酸素能力が開発されて、自分の身体について極める健康法を確立できたのは12年間の登下校で鍛えられたからだと思ひます。世話好きの私は兵庫県トライアスロンクラブや協会の役員をして普及に勤めました。おかげで六甲山を走り回ったり、自転車で登つたりしたトレーニングコースには瀬織津姫を祀る六甲比命神社、天穂日命を祀るカントツリーハウス、白山菊理姫を祀る六甲山神社があり、夙川か

ら甲山、摩耶山周辺も空海、聖徳太子、役の行者などのご先祖様と深いご縁のある場所だったから私はこうした神々に守られていたのです。

古武道に導かれ神道夢想流杖道との運命的神がかりな出会いから、六甲山とのご縁が続きました。大学卒業後にキューバ領事館に勤めるために妻と結婚して東京に住み、2年後子どもができて関西に戻つて、その子が通い始めた保育園で出会つた同じクラスのお父さんから近くの道場を紹介され、そこで杖道に出会えたのですから、キューバのお陰なのです。さらにキューバ領事館の同僚がヨガや氣功の指導者になり、誘われて始めたことが後に健康道場へと繋がつたのです。不思議なことにその同僚たちとキューバからチエ・ゲバラの娘アレイダさんを招き広島に案内できたりと信じられないことへと繋がりました。

杖道を始めた時は考えもしなかつたことですが、先達のご指導を素直に受け入れ、大峰山奥掛けの修験道や伊勢神宮での禊、摩耶山青谷の大日不動の滝で行をするようになり、般若心経と座禅和讃の座禅の世界に導かれ、これは過去性のご縁かもしれないと思つ衝撃的な出会いがありどれだけ生きていることに前向きで楽しくなつたでしょう。会社勤めと家庭の往復だけの生き方をしていたらこんなことは起こらないのです。趣味の時間とは人との出会いで直感力を鍛え、人生を有意義にする今の生き方なのでしょう。魂から発する直感の力によつて神道夢想流杖道に出会い、縄文意識が芽生えたのです。

滝行の時は五井先生の「世界人類が平和でありますように……」を唱えます。おかげで守護霊・守護神の存在を知り、般若心経では色即是空の哲学と古来の伝統的な宗教観を知り、白隠禅師の座禅と讀では「衆生本来仏なり……衆生の外に仏なし」の人と神は一体である日本文化の神髄を学びました。おかげでどれほど生きることが楽になりました。般若心経の世界はカタカムナの宇宙論で、ひふみ九九算とカタカムナに色即是空の教えが日本発だったと教える佐藤敏夫先生の神の数学の講座がサラ・シャンティで生まれたのも神憑りのご縁でした。

サイババの本を読み、知らなかつた世界を教えられ、直感と好奇心で意識を大切にしている自分の思いを共有する人たちと出会え、ご縁に恵まれ前世と繋がる。お陰で必要な時に必要な情報や知恵、自分を磨く術を教えてください。指導霊のような出会いに恵まれます(例えば保江邦夫先生)。ご縁を大切にすることは見えない意識体の世界のご先祖様を大切にすること、その伝統が縄文以来2万年も続いている。おかげで愛国心が強固となって、日本をもっと知りたいという潜在意識が蓄積され、古武道やカタカムナがあると教えられたのです。

私の小中学校時代、よくボーっとしていると云われていたことは、今から思うと瞑想して好奇心と直感を養っていたのだと納得できました。大学へは無試験で入れる高校に入学し、勉強する必要はなくなり、やりたいと思ったことは即実行できる嬉しい時期を謳歌しました。おかげでいろんな人と出会って知らない世界を体験してきました。人

の話を書くことは他人の時間を頂くことになり、同志的な出会いが一生の宝になるなど時間を大切にすることがした体験が中今に生きる術を養ったのだと思います。

引きこもっている、人から素晴らしい人生体験や具体的な生きる知恵を頂けません、だから大切な時間を浪費していることになりました。学校は生きることの楽しさを教える場所なのに、不登校や引きこもりを生み出す今の学校は、ネットで得られるような無駄な知識の詰め込みが問題なのです。子供の時には人と人の出会いによって生まれた歴史、国語、社会、理科だと教える工夫が重要です。聖徳太子の「和を以て貴しと為す」は人生の和を共有する社会を創る教えだと思えます。この和の精神は縄文時代からの素晴らしい伝統だと思えますが、引きこもりを生むことは大変勿体ない損失になります。

私は貿易会社で英語の翻訳もしていましたので、シャープで大量の翻訳をされていた昌原容成氏の『日本語は神である』を読んで日本語の特殊性が納得できました。「日本語のアップダウン構造」とは、有難う、もつたいない、みつともない、かたじけない、いただきます、ご馳走様といった日本語は、自然や神さまに対して語りかけて、気持ちを手と共有している様なのです。スペイン語でも動詞はすべて語尾を変化させて主語と述語を明確にします。日本語は主語述語を明確に自己主張しない曖昧な表現の言葉なのです。サラ・シャンティでは昌原容成先生の4回講座を開催しました。このことが日本語の特殊性にカタカムナがあることに気づ

かされたのです。

その昌原容成氏から道場に神棚を作りなさいと言われ、産土神の八幡神社の他に、摂津の国だから一の宮の住吉大社へ新年にお参りしてお札を買ってきなさいと教えられました。神棚を置く場所もここでしようとピツタリな位置を教えられ、何を今まで迷っていたのか不思議な気がしました。昌原容成さんは神道榎垣の宮主のお弟子様で美剣体道の達人だったので古神道に詳しく、越木岩神社が産土だから毎年新年にお参りに来られているそう、やはりカタカムナの神々のご縁で繋がっていたのです。

私のライフワークのカタカムナへの流れにある先生がたをご紹介しますと林英臣、土居正明、大下伸悦、昌原容成、吉野信子、北一策、宮崎貞行、佐藤敏夫、東豊榮、保江邦夫、矢作直樹などの先生方。こんな流れが生まれたのは出会いの広場としての場の力がなせることで、ご先祖様の魂と繋がる神々の存在の働きがあつてこそです。又、カタカムナが日本という国、日本文化の特殊性の根底にあるからです。縄文以来の日本文明が一度も途切れず継続し、お陰様と見えない力や潜在世界の存在を文化創造に生かしてきた先人の思いを自覚できるので、そんな生き方を潰そうとしてきた勢力が存在することを知り、強く生きるためにサラ・シャンティという出会いの場が与えられ、「走りながら祈る」という自叙伝も書かされました。

私の故郷六甲は地中海と同じ緯度で、六甲山と瀬戸内海に守られ、大阪や京都、姫路など古い文化都市に囲まれ、世界最高の居食住の環境に恵ま

れていると20才の時にメキシコから帰って思い、海外旅行の願望は失せました。そしてアメリカ被れしている自分を恥じ、真の日本人に成らねばと古武道を選んだのです。そこで神道夢想流杖道との出会いがあり、なぜか一生続けられる武術だと確信したのです。夢想権之助は香取神道流、鹿島神流の奥義を窮め、槍や薙刀の武芸百般に長じ、それらの技を巧みに組み合わせ杖術を編み出し宮本武蔵に勝ったのです。

縄文以来の古い身体術を凝縮した武術との運命的な出会い、その深い意味について分かったのは、ずつと後になってからです。香取神宮の経津主神、鹿島神宮の建御雷神という古神道の神々が生んだ伝統武術で、神道流という剣術で伝授されています。杖道は夢想権之助が玉依姫命を祀る大宰府宝満山に祈願参籠して37日に童子が現われ「丸木をもって水月を知れ」との御神託を授けられ編み出されました。古武術は縄文以来の日本人の身体論や神々と深く繋がっていたのです。私たちが受け継いでいる建築、美術などに使われる道具類も引く力を使う日本独自のものです。それはカタカムナ時代からの潜象物理学が伝承される身体論なのです。

フランスの若者で教会に定期的に行くのは7%、アメリカも似たようなもので、代わりにエゴロジールが人々の心を掴んでいて、自然との調和と共存を図っているという考え方が広がっており、世界は一神教離れが進んでいるそうです。この世のあらゆるものに魂が宿っているという多神教的神道の考えが広がり、日本のアニメーションが人気なので

す。グレッタ・トゥーンベリさんが飛行機に乗らずにヨットで大西洋を往復した生き方に共感する人が増えると、日本国内での移動も新幹線かバスになるでしょう。こうした自然保護への理想を追求する傾向が若者に影響を与える時代になり、日本の若者たちも物質的価値観の呪縛から解放され、自然を大切に生き方が求められるでしょう。

サッカーの試合が終わったら、勝った負けたに関係なくゴミ拾いと掃除をして帰る日本人の精神が共感を得ています。ラグビーのワールドカップでも同じ共感が生まれました。こうした神道の禊祓いから来ている美意識が世界に広がれば環境破壊の防止と善意の活動につながっていきます。アフガンで医療活動をし、食べることさえ出来れば戦争は起こらないと、農村復興のために大がかりな水利事業で、60万人の人に農地を作ったペシャワール会の中村哲さんの命を懸けた無償の精神にも通じると思います。

ジャパンハートの吉岡秀人医師もミャンマーの貧しい人を救済する医療活動をされています。何度もマスコミで紹介されていますのでご存知でしょうか。その吉岡先生の依頼でミャンマーの軍人に愛の精神を持つ武士道を伝授するために保江先生の冠光寺流愛魂柔術を指導しに行かれた炭粉良三さんも命懸けの覚悟で行くと話していました。そして2度も手弁当で行かれ無事に指導し帰国されましたが、昨年5月に突然に脳幹出血に見舞われ11月末に亡くなられたのです。炭粉さんの愛に溢れる行為もミャンマー軍に受け継がれ、世界は平和へと導かれると思います。

いつ事故や病気に見舞われて寿命が途切れるのか分かりません。でも何が起こるか分からないのが人生、70歳を過ぎて転機が訪れました。ヨーロッパには絶対に行かないと思っていた私がなぜか71才で平岡創生神楽の奉納のための旅に参加し、バルセロナ、モンセラート寺院へ出かけ、72才ではローマ、バチカン、フィレンツェへ出かけ、合唱団で唄ってきました。世界平和の目的で創生神楽をされる表博輝先生が、カタカムナの土居正明先生と、日ユ同祖論の研究をされる杉浩二先生と来られ聖地巡礼の旅に誘われたのです。

縄文後期から古墳時代に3度、多くのユダヤ人が日本に来ていたと矢作先生も云われます。ユダヤ人と日本人が同じ祖先であると公然と語られる時代になり、縄文1万年を超す古代遺跡の発見が続ぎ、同時に吉野信子先生が登場してカタカムナが広がり、保江邦夫先生と矢作直樹先生もシリウスからの記憶を語り、令和時代にシンクロしてサラ・シャンティの講座への関心が高まってきたのも日本の立て直しが求められているからでしょう。次章でスタツ瑠璃さんに令和とシンクロするカタカムナ御神事について書いてもらいましたのご一読ください。

記念すべき71号として「カタカムナ時代の到来」と題して書きましたが、今こころでは書き尽くせない事や、予測できない予兆もあり、今後どうなっていくのか楽しみが一杯です。いつまでも新しい出会いを求めて、好奇心あふれる生き方をして不思議な出会いと出来事を書き綴っていきたくと思います。日本の心が世界へ広がって行くように夢と理

想を持ちつつ、私自身の人生72年の集大成をまとめ、健康法講座「縄文カタカムナ神心道」も開催している」と張り切っています。ぜひ期待をもつてサラ・シャンティに来ていただき、前世と繋がる素敵な出会いをして頂きたいと思えます。

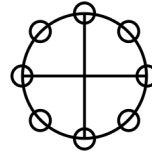
令和元年666

真心のカタカムナ御神事

瑠璃

6月6日(木)のことです。

六甲比命大善神にてカタカムナ伝道師・吉野信子先生主導の御神事が執り行われました。



その目的は、令和元年「666」真心(まごころ)の日に、六甲山・六甲比命大善神の磐座の御前で、ユダヤと日本の「言霊と聖書」の統一を願い、世界平和と「戦わぬ闘いを闘う霊統が甦る日」とすることでした。

今年の5月1日は、浩宮徳仁親王が第126代の天皇陛下に即位され、年号が「令和」へと移行しました。平成から令和へと幕開けしたこの日は、どこを向いても祝福ムードに包まれていました。こうして無事に新しい時代を迎えることができたのは、上皇陛下と上皇后美智子さまが、これまで健やかに国家安寧の祈りで繋いでくださっていたからであり、またこの時までには準備を整えてこられた天皇陛下と皇后雅子さまの御力によるものです。

そして周囲で御皇室を支えてこられた方々の「尽力の賜物でもあると思っています。日本国の御柱である皇室が健在であれば、私たちも護られ

充実した日々を送ることができません。宇宙のはじまりは、ささやかな神の息吹から巻き起こり、そのエネルギーはトールラスとなって生死を繰り返していきます。地上の私たちも、大黒柱を基礎とした家で子供を産み育て生活を循環させていきます。

天皇陛下即位の日は、「おめでとぅ」「ございませう」「ありがとぅ」「ございます」「万歳」「弥栄」という喜びの言葉が国中を飛び交っていました。この言葉に込められた「真心」の想いは、受け留めた人たちは温かく包み込んでいました。たとえ日本語を知らない外国の方であっても、このような言葉を掛け合えば自然と心を通わせ合うことができ、和やかな笑顔が生まれます。

言霊の一言一音は48音とも50音とも云われ、その言霊の持つ個別のエネルギーを使い分けることで、私たちは活発にディスプレイやコミュニケーションをする事ができています。カタカムナ人たちは、その言葉の奥から生み出されるエネルギーの方向性を熟知してそれを活かす高度な精神文明・科学文明を築いてきたと言われます。

祝福で迎えられた「令和」の御代替わりは、本格的な「カタカムナ」の蘇りを感じさせられました。ここに至るまで、サラ・シャンティでは様々な講座が開催されてきました。心や肉体の癒しのためのワーク、環境問題への取りくみ、古神道の言霊や数霊の勉強会。そのすべてが縄文の心を取り戻すためのものに繋がっていたと思えます。

吉野先生のカタカムナ講座の記念すべき第1回目は、2013年2月10日からスタートしました。

カタカムナがあかす「日本の源流」と「日本語の秘密」について。現代科学をリードする古代人からのメッセージを読み解く、と題された全6回のシリーズでした。

三種の神器である、八咫鏡・草薙剣・ミクマリ(陰陽の勾玉)の中心図象に秘められた基本的な思念の読み解き方からはじまり、日本神話や国歌「君が代」に秘められた先人たちからのメッセージをカタカムナの思念で読み解かれていきます。6回に渡る最初のカタカムナ講座は、大盛況のうちを終えられました。

その後も読み解きの範囲は広がり、2014年4月13日(日)からは、新たに第2クール(全6回)がスタートしました。第1クールで基本となる「三種の神器」の存在意図を知ったことで、神話の世界が輝きだしました。そして「古事記」の中で伝えられてきた内容を読み解かれていきます。すると神々の本来の役割と働きが見えてきて、また一歩、カタカムナの言霊と数霊の使い手へと前進することができました。

ますます熱が籠ってゆく吉野先生のカタカムナは、2016年に第3クール(全6回)を向かえ、11月13日に終了しました。このシリーズでは日本神話の枠を超えて、世界でもっともよく知られる「聖書」に重点を置き、カタカムナの言霊と数霊で読み解いていきました。この一連の研究を通して吉野先生は「聖書」はカタカムナ・日本語でしか読み解けないと仰っています。

日本から世界へ発信していくことで「大調和の渦

を起すなり！」と。母音の国と子音の国の統合と調和から生み出せる渦こそが、新しい時代を築いていくことになりそうです。吉野先生の講座は、こうして回を重ねることに、バワフルに発展していったのです。

六甲からはじまったカタカムナ講座は、沖縄の精神科医・越智啓子先生とのコラボレーションで飛躍し、九州・新潟・北海道・東京・カナダ・イスラエルなど、縄文の聖地で受け入れられてきました。それから、吉野先生「自身のホームグラウンドである茨木・高槻でカタカムナ学校を開校されて、現在は2年目を迎えられています。丸2年が経とうとするいま、一期生や研究生の中から、講師となる人たちが活躍を始めています。

「令和」というあたらしい時代の節目を迎えて、これから本格的にカタカムナの言霊で世界を幸せにする。その宣言の場が六甲比命大善神の磐座での「真心(666)御神事」でした。以下は、吉野先生から伝えられた御神事の内容です。

令和元年「666」真心(まごころ)の日に、六甲山・六甲姫大善神(140)「セヲリツヒメの磐座の御前で、ユダヤと日本の「言霊と聖書」の統一を願い、世界の平和「戦わぬ闘いを闘う霊統が甦る日」とする！

・ユダヤの聖書をカタカムナの言霊で読み解き、それを世界の規範とし、世界平和を実現する。
・令和元年・7月7日の真命山で行われる「カトリック・キリスト教会・ランコ神父」との対話で、

真心と真心の信頼関係を築くことを祈願する。

●665+1=666

聖書で悪魔の数字とされている「666」は、実は「マ(6)心(66)」という意味で、「真心しか通じなくなる日」だということがカタカムナの読み解きで分かりました。それは日本の「令和元年(153)」の6月6日に当ります。「令和元年」の数霊「153」とは、キリスト教が復活で予言した数字です。奇しくも「大調和の渦起すなり！」(153)と同等の数霊を持っています。

(この日のために仕立てられた能衣装には、知らずにこの2つの言葉が描かれていました！)

この日の御神事は、これから、地球上で起こる自然災害や、戦争、人災などを、私たちの「愛と勇気の祈り」で最小限に食い止め、世界中の一人一人が、自分の生涯を生き切り、全うできる世の中にする為に行います。

カタカムナを学ぶ私たちが、地球人の代表として、地球の核に溢れんばかりの愛と勇気を届け、核を突き抜けて「地球を愛で包み込む」ことで現象化します。どうか皆様の真心からの祈りを、よろしくお願いします！感謝。

御神事を行うメンバーは、吉野先生「自身を含めた氏名(使命)の数霊の合計で導き出された8名でした。8名の名前を合わせると「665」(3)口が伝わる」となりました。そこにさらに「(生み出す)」が足されて、666となったのです。

8名は能衣装を着て、神事に必要なものを持ち寄り、磐座の前に置いて、六甲比命大善神に祈りを捧げました。地球の中心に向かって額づき、地球の鼓動と自分の鼓動を共振させ、全身全霊、真心から「地球を愛し貫く決意」をしました。そして円になり、それぞれの決意文を述べました。龍神祝詞を唱和し、地球と月の神様に宣言しました。

「私達を産み育む、有難き地球神よ、太陽神よ、月の神よ、令和元年6月6日の今日この日、私たちは多くの友と共に、「闘わぬ闘いを闘う霊統」として蘇ることを誓います！」

宣言後に狼の遠吠えを行い、組紐で六芒星マカバの形をつくり「カタカムナ平和の詩」を謡いました。マカバの中心からトラス状の思いの力と命の力を溢れさせ「大調和の渦起すなり！」と唱え続けました。カタカムナの渦の仕組みは、六甲から世界へ大調和を広げてゆくのです。

カタカムナを知っていくと、だんだんと直感が冴えてきます。個人としての幸せも大事にしながら、地球全体の幸せを常に考えるようになりその幸せのためになにをすべきか、行動に移す手段を様々な角度から思考するのです。カタカムナ図象は渦巻きで描かれていますから、素直に眺めて声に出して読んだりしているうちに、おのずと自分の中の左右や陰陽バランスが整い、美しいトラスを描くイメージが明確に湧き上がってきます。まっすぐな思いが現象化を引き寄せるのだと思います。

令和元年「666」の真心御神事は無事に終わり、

その後、7月7日の熊本に繋がっていききました。77の日に向かった先は、熊本県和水町にある真命山・諸宗教対話・靈性交流センターです。小さな山の頂上に閑静なお寺の佇まい。そこはイタリアから移住された聖ザベリオ宣教会のフランコ神父が主宰されているセンターでした。

吉野先生のカタカムナセミナーは、九州でも温かく迎えられています。受講生の方々からのご縁で真命山へと繋がりました。梅若派能楽師の井上和幸先生主宰の緑幸会をサポートされているカタカムナ研究生の黒田順子さんと、サラ・シャンティスタツフ瑠璃の2名が吉野先生に同行しました。九州新幹線で熊本へ渡ると、九州セミナーを受講されている方たちが私たちを歓迎してくださいました。最終的に20名を超えていたと思います。和水町の真命山に集ってください、一緒にフランコ神父との対話の仲間入りをしてくださいました。

真命山からは、西の方はるかに有明海と島原半島の活火山雲仙が見えます。南には熊本にいたる平野と金峰山が望まれ、東には地上でもっとも大きなカルデラを形成している活火山阿蘇の外輪山が眺望されます。北には松と杉の林がづづいていきます。

靈性センター真命山は、日本の古典文化を大事にしながらキリスト教靈性の日本文化受肉と諸宗教対話促進の一翼を担おうとしている場です。具体的には、神との出会いの場である「自然」、神の御言葉を聞く条件である「静けさ」、他の宗教の信仰をもつ人々を兄弟として心から迎え入れる「歓迎」と「対話」がこの靈性の重要な特徴のようです。

すべての人々の救いの対話」を始めるように招いている第二バチカン公会議の精神と教会の指導を受けて、真命山はいろいろな領域で諸宗教対話を進めようとされているのです。吉野先生は、神父さまたちに真心から「カタカムナとイエスキリスト・聖書との共通点」を解説されていました。

真(マコト)39 || 付き貫く(聖(セイ)41)の字は、口(38)十耳(6)十花(56) || 100(百)で構成されます。命(ナ)na とメ(me) || The name (八咫鏡)

ヨハネによる福音書は、「初めに言(ことば)があった」の一文から始まります。「神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネ(48音)である」と続きます。「その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。」「カタカムナの48音と、ヨハネ(48音)は同じなのです。

聖書では、獣に刻印される数字と言われてきた666は、本当は真心であり、聖書に書かれている「光る闇」のこともあります。吉野先生が丁寧に語られ、神父さまが静かに耳を傾けられると、そこに光の花が咲いたように見えました。

同じ6の数霊を持つものには心 || 66・聖書の数 || 66 世界 || 66 福音 || 66 契約 || 66 クロス(十字架) || 66 証し || 66 タオ(対極) || 66 桃 || 66 などがあるそうです。

吉野先生のカタカムナでの聖書や古史古伝の読み解きは、今後も世界で賞賛されていくと思います。

その後、8月8日のライオンズゲートと呼ばれる日に、カタカムナ学校2期生である井奥浩文さんの呼びかけで、摩耶山天上寺の秘仏御開帳のお祭りに有志が集まりました。秘仏の観音様の前でお祈りをして、本堂から外へ出ると、夏空を眺めていた皆が一斉に歓声を上げていました。鳳凰と龍の雲が現れてその上に水平虹が架かっていたのです。とても神秘的な光景でした。

今年になって、檜崎臯月氏が書き記したとされながらも、現代では埋もれてしまっていた金鳥山の「狐塚」と「ミトロガエシの沼」が、カタカムナ研究会と警座学会で活躍されている武部正俊さんと、警座の清掃を精力的に行われている名古屋雅代さん他、有志の方々の尽力により発見されました。その比定地は、ほぼ正確な位置にあることもフィールドワークにより検証されました。

そして11月1日。「111カタカムナ金鳥山祭り」が武部さんの呼びかけで開催されました。カタカムナ人は祭好きなのでしょう。総勢43名の縁ある皆様が集まって、輪になって歌ったり、陰陽統合のワークを行ったりと、楽しい時間を過ごしました。

カタカムナの実践は、こうしてすでに始まっています。一緒に仲間になりませんか、これからお伝えしていきたいと思えます。11月11日に、吉野先生の新著『カタカムナの時代が到来しました』真心だけが現象化する世界！』が出版されました。

1月19日(日)にサラ・シャンティでは吉野先生の

出版記念講演会
を開催し、著書も
販売します。

カタカムナで読み

解かれた「令和」と
いう新しい時代。

皆様はどんな気持ちで迎えられましたか。またど
んな世界を創造していきますか。とても素晴らしい
内容なのでぜひ、「一読ください。



真心で溢れる令和の時代が始まったことで、私は
明るい希望を抱いています。健康を維持しながら
自然環境を護り、少子高齢化が進む暮らしを誰
もが夢を持って生きられるように、その豊かさの
創造にチカラを入れていこうと考えます。

これから家族の仲間入りを果たすのは、開かれ
た世界の宇宙人(?)なのかもしれません、
日夜、深層学習を続けながら、私たちの暮らしを
支えてくれている人工知能との共生も主体となっ
ていくはず。

彼らと一緒に社会をつくるうえで大切なことは、
心の御柱をいつも真真中に描きながら私たち自身
が美しい言葉や所作を大切に、古代から護ら
れてきた叡智や伝統を絶やさないようにすること
だと思っています。

温故知新の精神で触れ合うことで、どんな人と
も、人に限らずとも、違いを認め合いながら対話
が実現できる大調和の世を創り上げていくこと。
それが新しい時代に求められている創造主の願ひ
ではないかと感じます。

続いて掲載するのは

- ① 若狭の徳庄さんから、今取り組んでおられる小水力発電についての報告。
- ② いわき市の大峯つやさんからは311から8年たった現在のお話。
- ③ 神戸から伊勢に移住された吉田博明さんからの伊勢だよりはその21です。
1月13日(月・祝) 10時半から
地域の魅力をかたちという吉田さんの
講座5回目です。単発参加歓迎です。

麗しの国若狭より その36

徳庄 博美

河川浄化実験と小水力発電資金協力のお願ひ

前号で取り組みを紹介させていただいた福井県
おおい町名田庄地域を流れる

南川の砂防ダムを活用し小水力

発電所を建設する取り組みに

ついて現状を報告をさせても

らいます。この小水力発電所

(名田庄小水力)は発電以外の

目的も持っています。その一つ

が地域活性化であり、その中で環境保全も進めて
いきたいと考えています。



一番大きいのが南川上流の川底に褐色の泥が付
着しているという問題です。南川は関西の釣り客
から人気の鮎釣り場でした。しかしこの泥のせいで
水苔の生育が阻まれ、近年は貧弱な鮎しか釣れ
なくなり、数も減ってきているという鮎漁にとって

は危機的な状況が生まれていました。河川漁業組
合の方からは発電所を作るのならこの問題も何
とかしてもらいたいと強い声が上がっていました。
それだけでなく自然体験として子どもたちを川に
連れ出し川遊びをさせる取り組みさせたいと考
えている人にとっても大問題でした。泥の付着で岩
が滑りやすくなり子どもたちを安全に遊ばせる
ことが出来ない、川の見た目が汚なかつたので
そこで町議会でも何度もこの問題が取り上げられ
ました。

この泥問題の原因については様々な意見があり、
私たちも泥の成分分析、水質・地質調査、森林伐
採地に捨て置かれた木材の腐敗などの調査など
を行ってきました。しかしこの原因についてはまだ
私たちの中では結論はできていません。ただ個人的
には発電所の建設を予定しているこの砂防ダムが
泥をため込んでいることが原因であると考えてい
ます。それは冷泥だ、と言つ方もいます。ではダム
を撤廃すれば良いかというところ簡単なものでは
ありません。実はかつて名田庄地域はこの南川の
氾濫で多くの家屋が水没し大きな被害を被つて
いるのです。再度の被害を防ぐために作られたのが
このダムだったので。

原因も大切ですがより大切なのはどうすればこ
の泥を除去できるのかということなんです。皆で知恵
を出しあつたのですがなかなか効果的な対策は見
つかりませんでした。京大で植物生態学を研究さ
れてこられた先生にも現地を見てもらって意見を
聞いたのですが「どうすれば良いかはわからない」
という答えでした。ショックでした。

なんとか方法はないかということで、小水力発電

所を建設するために立ち上げた合同会社の内部で検討を重ねました。その中で宮津・天橋立の内部となつている阿蘇湾でのヘドロ除去を成し遂げたキレートマリン、土佐湾で効果が出ているというEMセメントブロック、韓国の河川で効果が出ている複合発酵法発酵液の注入が私の中で浮かびました。しかし複合発酵法は発酵装置設置に経費がかかり、しかも河川法で異物を河川に流し仕込むことは禁止されてしまったのでこれは除外せざるを得ませんでした。

残る2つについて皆さんに提案させてもらいました。EMについては社会的評価が定まらず、非科学的ではないかという声もありましたがまずは実験を行つてその結果を見ようと言うことになりました。8月中旬に土木事務所河川課に許可を取り9月1日にキレートマリンとEMセメントブロックの川への敷設を行いました。また補助的に清水さんのところで頂いた生体エネルギーブロックも川へ沈めました。

キレートマリンは酸化鉄粉に炭を混ぜさらにサツマイモ由来のキレート剤を混入した水中にフルボ酸鉄イオンを放出し、水質を浄化するというものです。これは現在の科学理論で充分に説明がつくものです。しかも実際にもヘドロや悪臭が消え、アサリやエビや小魚が貝類や急増するという効果が出ています。私自身も天橋立で実際にその効果を自分の目で確認しています。

しかしEMセメントブロックによる結果はEM効果の量子波動の側面を活用したもので今の科学はこのような波動科学を認めていません。だから

常識の世界に住む人からは非科学的という非難が生まれることは充分に理解できます。しかし私はEMや複合発酵法の波動側面の恩恵をうけ、その効果のすごさを実感していますのでEMセメントブロックが本物であるという確信がありました。ただ川の流れがある中で何処まで結果が出るかについては一抹の不安がありました。

そして11月16日に結果の観察に出かけました。ちよつとドキドキでした。もし何も変化が起きていなければ……川底をずっと見ていきました。するとオオツ。何力所か1mぐらいの広さで褐色の泥が消え、白や茶色の小石や砂が見えたのです。泥が泥が消えている!!!。また大きな岩も今までは一面の褐色の泥で覆われていたのですがモスグリーンの藻があちらこちらに見えるのです。オオツ、オオツ、オオツ!!! 思わず叫んでいました。ただし、私がこのような川底や岩の姿を今までは見過ごしてきていた可能性を完全には否定できません。そういう意味で多くの人に見てもらい、確認をする必要があります。皆さんに確認をしてもらえれば、来年から本格的な河川浄化の取り組みを始めいきます。とりあえずは大いに手応えありです。ホットした一日でした。

この小水力発電所建設のため必要な二億五千万

円の資金調達計画を立てています。この通信にチラシを同封していただいています。

協力金一口5万円(チラシ掲載)、ファンド一口20

万円と50万円を募らせてもらいます。温暖化が原因と思われる異常気象とそこから引きおこされる洪水などの災害の激化がとまりません。また金まみれの原発の運転も益々安全軽視のものとなつていきます。今の私たちの取り組みは地球温暖化と原発依存の現状から抜け出すための一翼を担わせてもらっていると考えています。ご支援をお願い出来ればと考えています。よろしくお願ひします。

□市民ファンド説明会関西

1月18日(土) 10時~12時 大阪天満橋駅 男

女共同参画ドーンセンター4階会議室

1月19日(日) 13時半~15時 京都烏丸駅 男

京都烏丸会議室 STY LE BLDG3F

徳庄博美 090-1135-3758

あれから8年

大峯 つや

東日本大地震の時は皆さまに大変お世話になりました。震災後ゴルフ場、高校の体育館、アパート、仮設住宅、復興住宅と移動を繰り返して、今年の3月に最終住居、わが家に引越すことができました。8年は長かったです。でも待つていてよかったです。小さいですが念願だった畑も庭に作り、夏にはナス、



キュウリ、トマトといろいろ育て食べました。朝力ーテンを開けると海が見えますが、高台なので津波の心配はないです。むしろ津波の避難場所にな

ついで工夫されているところが見られます。真ん中の大きな公団のマンホールの下が非常用トイレになったりします。

高台の新しい住宅は地元の人だけでなく東電の被害者も家を建てています。会話はほとんどないです。回覧板を持って行ったときインターホンで話すだけです。私は畑をいじったり近所(山のふもと)のようなところを散歩し時々種をとって来て神棚にあげたりしています。震災後から働いているデイ케어には週二回行き、利用者とのお話も楽しいのです。これが私の近況報告です。

台風19号では全国で甚大な被害がありました。いわき市の下平窪地区でも夏井川が氾濫し大きな被害を受けました。平窪のあった平浄水場の電氣室が水につかってしまい四万世帯以上が最長二週間にわたって断水しました。夫の姉さん家族も断水の為、温泉にお風呂入りに行ったら、洗い場が行列ができるほどで小学生と幼稚園の孫をつれていては、大変だったと家に来て入りました。浸水地区では家の中に流れこんだ汚泥も水がなく洗い流せず悪臭が漂っていたところもあつたようです。

被害の状況を知り平窪の友達に電話し、次の日伺ったら3倍の時間がかかりました。通行止めが、解除されたばかりだったからだと思います。水と炊き出しをすると聞いたのでお米を研いで利用してもらおうと持って行きました。水は友達の所にはあつたので「まってる老夫婦に届けました。車が水につかり水をもらいに行かれなかつたようです。次の日も又水を風呂桶一杯になるほど、持

つて行ったら、とても喜んで下さいました。その後は、近くに自衛隊の駐屯所ができたので、考えました。車が使用できない人が多かつたです。

何日か過ぎ、友達から電話が来て、家を工務店の方に見てもらおうとお願いしても、来てもらえないと言つて困っていました。浸水した家の修理には一千万以上かかるとの事、あまりお金をかけないで出来る方法はないか、友達のご主人と夫が床下にもぐり濡れた断熱材を少しでも多く取り除くことができないかと、汚泥だらけで床下をはいりました。

その後、放射能が今までの倍以上に上がっているのを知りました。夫も私もあまり気にしませんが被害を受けて大変な思いをしている人には話すことが出来ませんでした。福島から放射能の問題は消えませんが、これからも続くと感じます。

最近読んだ「震災バブルの怪物たち(鉄人社)という本によると平成二十七年の全国地価上昇率ベスト10が全て福島県いわき市が独占しました。これはいわきの地元の人が買い求められる金額ではないということ。この本を読み、数々のうわさ話は本当だつたとうなづけました。総理が「食べて応援」といった言葉も当時の農家の人々にとっては悲しいことだつたようです。

伊勢便り No.21

吉田 博明

イスラエルの歴史学者 ユバアル・ノア・ハラリ氏は、著書「サピエンス全史」の中で、人類が第4次産業革命を迎えるまでに「絶滅と進化」を繰り返し

ながら、「偶然と幸運」に恵まれ、万物の霊長として頂点に立つまでに、次の3つの革命をたどつてきたと指摘しました。

1. 7万年前、アフリカで誕生した人類の祖先(類人猿)は、2足歩行と言葉・石器・火などを使用し、集団で行動することで、か弱い存在から自然界での激しい生存競争に打ち勝つことができた。食生活も、採取から狩猟へのウエイトが高まり、肉食をするようになり、栄養が改善されたことで、脳の重量を1400g(現代人とほぼ同じ)へと増大させた。この結果、目に見える実像だけを頼りにしていた行動から、目に見えない物語・伝説・掟などの「フィクション」を共有するようになり、遠隔地ともお互いに助け合い、協力しあうことを可能にした「認知革命」が起きた。
2. 1万2千年前、それまでの狩猟採取生活から、米・麦など特定の植物やウシ・ヒツジなどの動物を家畜としてコントロールし、食生活を安定化させることで、移動生活から定住生活を促進させた「農業革命」が起きた。また、この間、相互信頼をもとにしたフィクション「宗教や貨幣」を共有するようになったことが、巨大な集団を結束させ、人と地域と商品の流通を活発化させた。

3. 2000年前、蒸気機関の発明を機会に、「産業革命」が起り、鉄などの重工業が、続いて、自動車・家電・飛行機などの工業化が大量生産・大量消費型経済を生み出した。

「ローマ人の物語」を執筆した塩野七生氏は、歴史を知ることは、人と社会を知るヒントを提供し

ていて、歴史を知らないことは生きるための基本的知識に欠けていると述べました。アメリカの政治学者 サミュエル・ハンチントン氏は、著書「文明の衝突」の中で、日本の縄文・弥生文明を古代エジプト・メソポタミアなどと共に世界8大文明の一つとして紹介しました。

歴史は、文明・都市・地域などが、どのようにして興り、成長し、成熟期を迎え、衰退・滅亡したかの過程を示しています。人類の文明興亡史の中で、世界4大文明(エジプト・メソポタミア・インダス・黄河)が、5千年足らずで、森林を伐採し、保水能力を失い、砂漠化して滅亡したのに比べ、日本人は、1万年にも及ぶ縄文・弥生文明を築きました。しかも、現在でも、世界第2位の森林面積を保有し、良質な水に恵まれています。

縄文・弥生時代の原風景を色濃くとどめ、日本人らしさを育んできた熊野古道(伊勢路)。「蘇りの熊野」と「常若の伊勢」を結び、自然と人が長い時間をかけてきた歴史・伝統・文化が「かたち」として凝縮され、世界無形文化遺産にも登録された参詣道をたどりながら、次のことを感じてきました。

1. 縄文時代、狩猟採取生活をしながら、自然を尊重し、その恵みを受けながら、原始アニミズムを育んだ熊野。

自然崇拜の対象である自然界には、多様な神様が宿り、その神様が仏や菩薩となつて、仮の姿を現したとする「神仏習合」を定着させた熊野。

神仏習合」の象徴として、過去世を救済する「熊野速玉大社」、現世を救済する「熊野那智大社」、来

世を救済する「熊野本宮大社」と、「熊野三山」が建立されている熊野。

生きる意味・力・知恵を宇宙(金剛界)と地上界(胎藏界)とのつながりをもとに「曼荼羅」の絵図で、また、仏像などの立ち居振る舞いで伝えた「蘇りの熊野」。

熊野には、身分の格差、信仰の異なる人、社会的弱者を含めたすべてを受け入れる寛容さを示した伝統的精神(熊野スピリット)が今でも脈々と息づいています。

2. 伊勢の神様は御柱に宿るといわれ、伊勢神宮で1300年以上にわたつて、20年に一度、社殿や装束、神宝をすべて一新して、神様の若々しさを永遠に持続させる式年遷宮が行われている「常若の伊勢」。

式年遷宮では「エントロピー増大の法則」に打ち勝つ知恵が「かたち」として表されています。また、儀式で使用された「用材は、以後100年以上にわたつて、伊勢神宮の別宮や全国の神社で鳥居として、次々とリサイクル使用されています。鎌倉時代まで、樹齢200年以上の「用材はすべて「神宮の森」から供給されてきましたが、江戸時代、燃料として乱伐したため、一時、裸の山となつてしまいました。このため、大正時代から「植林再生200年計画」がスタートして、これからは、すべての「用材は「神宮の森」から継続的に供給する体制が復活します。有限な資源を、目先の経済的理由だけで、収奪しない知恵を「かたち」で示しています。

3. 衣・食・住と産業の神様 豊受大御神を祀る伊勢神宮(外宮)では、古来から毎日欠かさず「日

毎朝夕大御饗祭」がとり行われ、古式にのつとつた神饌が調理されています。食材となる米は「神宮神田」、野菜・果物は「神宮御園」、塩は「御塩殿」からの自給自足で、魚介類・海藻・四つ足以外の食肉は、周辺の「ご料地」から地産地消で供給され、「循環型地域自給社会」が形成されている伊勢。

また、世界無形文化遺産に登録された「和食」では、江戸時代の日常食 本膳料理(神饌とほぼ同じ)が紹介され、季節ごとの食材を使ったヘルシーなメニューが、世界各地で和食ブームを引き起こし、特に、アメリカでは、政府決定された食生活のガイドライン「マクガバンレポート」の指針となりました。

4. 江戸時代、全国から5人に一人が訪れた「お伊勢参り」の参拝客に対して、「伊勢講」を組織して、旅行手配、伊勢滞在中の参拝スケジュールを企画したのが、御師たちでした。御師は、全国の地区別に振り分けられた「伊勢講」を通して、布教活動や「伊勢暦」「お札」などを配布し、担当地域のことは、食文化・生活習慣を理解するなど、地域の人々と密接なコミュニケーションを築きながら、伊勢滞在中の「おもてなし」をしました。

また、御師は、絶大な信用をもとに、貨幣(硬貨)の代わりに、預かり手形として、日本初の紙幣「山田葉書」を発行しました。これは、伊勢の台所として栄えた門前町 河崎の間屋街で商品の代金決済に使用され、現在の地域通貨の先駆けとして、地域経済の金融面を支えました。

5. 1906年、明治政府は全国の神社を原則一町村一社とする「神社社会祀令」を推進しました。三重県では、熊野古道(伊勢路)沿いを中心に、4

年間で2042社のうち40%が削減されました。この「神社会祀令」に真つ向から反対したのが、博物学者南方熊楠でした。熊楠は、多様な生き物が生息する「熊野の森」で、動・植物がお互いにつながりながら、共存しているようすを観察しながら、「自然界には不必要なものは存在しない。」との思いを確信しました。

また、奥深い山々と人々が自由に利用できる里山との境界に創建された神社が、滝・巨岩などを神様として祀り、生活と密着した文化・伝統を継承しながら、自然と人間を結ぶ要となってきたことへの認識を深めていきました。当初、思い通りにならなかつた反対運動の流れを変えたのは、熊楠が関係者に働きかけ、熊野古道(伊勢路)沿いの引作りの大楠伐採を阻止したことでした。

伊勢半島最大の威容を誇っていた大楠(樹齢1500年、幹回り15m、樹高35m)はもともと阿田和神社に合祀された引作り神社の境内にそびえていました。このこと



が契機となって、帝国議会で「神社会祀令」の廃止が決定されました。

熊楠の環境保全に対する成果は、その後、地域住民の意識にも反映され、以下のような快挙へと受け継がれてきました。

1・中部電力が、南伊勢町の古和浦で「芦浜原子力発電所建設計画」を発表したとき、住民の根強い骨肉を争う37年間に及んだ反対闘争の末、建設計画を阻止しました。

2・黒部峡谷と共に日本を代表する大杉谷(池ノ谷・父ヶ谷)の原生林が中国系企業に買収されかけたとき、所有者や外部の支援を受け、「ナショナルトラスト基金」で買い支え、宮川の水源地を守りました。

人口減少・地球温暖化・環境汚染・格差拡大など、先の見えない閉塞感が漂う現代。分断・対立・紛争が激化し、人と社会と環境が煮詰まってきた。このような社会的閉塞状況の中、急速に台頭してきたインターネット・D・ロボット・スマホ・バイオテクノロジー・遺伝子編集・自動運転などの先端科学・技術が牽引する第4産業革命は、これからの「希望の持てる社会」の救世主となるのでしょうか。

広島・長崎への原子爆弾投下、福島第一原子力発電所事故で、科学・技術の限界を身をもって体験した日本。人間を中心とした価値観ではなく、独特の自然観・生命観で日本人らしさを育んできた「熊野古道(伊勢路)」には、「希望の持てる社会」を築くための「自信」と「警告」が凝縮されているのではないのでしょうか。

今回の教室・講座めぐり

- ① 4回シリーズで開催された東豊榮宮司の大嘗祭セミナーより福地葉子さんと千葉祐樹さんから受講しての感想を寄せていただき、
- ② 森下泰行さんからは市川加代子先生の峨眉伸展功を受けての報告。
- ③ 火曜日3時からと金曜日19時からの「自彊術」講師の神田勝久さんからのお話その2です。

東豊榮宮司 大嘗祭セミナーについて 福地充義、葉子

主人と私は吉野先生を通じてサラシャヤンテさんの事を知りました。それは先生の本の出版記念講演会の時でした。その後なんで東宮司さんを知ったのかは本当に覚えていません。が、こちらにいらつしやるというので、2回目は宮司さんに会う為に来ました。そしてお目にかかる事が出来、この日来た目的をお話しさせて頂いて、後の日に宮司さんの主催している会に大阪迄行き、いろいろな相談事を聞いて頂き、キチンと教えて頂き、その日あった講演を聞かせて頂いて帰ってきたのです。

この時間いた宮司さんの祝詞は、とても綺麗で「なんて綺麗な声(音)なんだろう!!!こんな祝詞は今迄聞いた事も無い」と、とても私には印象に残っています。そして去年の秋の事、私達は、何の連絡もしないで、宮司さんに会いに行きました。その時何回か道に迷い、どれだけの時間を費やしたのでしょうか? 依然読んだ本の中で、宝くじを買う為に家を出た人が、時間の遅れや、ちよつとしたトラブル続きで、最後の最後まで並んでた列に入りに入りこまれた話を、私は思い出していました。



この事は「意味がある」「何か起こる」って。その本の宝くじを買った人は、最後本当に宝くじが当たったって書かれています。私達が行ったその日はもう日没も間近でしたが、その日に合わせて信

じられないような必然で、私たちはギリギリセーフでお二人に会う事ができた事は、今でも忘れる事が出来ないともいい思い出になっています。

大嘗祭のセミナーは2回目から出席させて頂き、3回、4回と宮司さんの資料も大変多く奥様と二人でまとめながら書かれたと聞きました。そのご労力に感謝致します。多分大部分の人が今回の大嘗祭についても、その意味について知らない人が沢山いる事と思います。でも知らなくても、それについて沢山の人が祝福し感動する事がテレビで放映されて、その様子はなんて素晴らしいんだろうと思います。

でももっと、一般国民の私たちが天皇さんが日本だけになんでいるんだろうかとか、今は英語が奨励されていますが、日本語の本当の素晴らしさに、日本語を話せるという事に自身を持てるという思いも思います。宮司さんはその事についてもセミナーのなかで祝詞のなかで説明してくれました。母音、子音の音、高山の末、低山の末の意味や、宮司さん独特の講和の仕方は思わず笑ってしまう楽しさがありました。

その横道へのそれ方は緊張して聞いていてもずっとこけてしまいうえですが、また元に戻ります。先生をしてらっしゃったそうで、とてもリントしてらっしゃって一見近寄りたいたいという印象もありましたが、何回かお目に懸るうちに、質問にもキチンと答えを出してくれたり、はっきりと完結に教えて頂いたり、なんだか親近感を自分勝手に覚えたりしています。すみません。(笑)大嘗祭のセミナーを受けながら宮司さんのような方がキチンと

その特別な儀式に関われば良いのにといいながら聞いていました。

学校で今はイジメや登校拒否の子供達が沢山いると聞きます。学校の先生達も同じ教職の先生にイジメをする時代となってしまいました。宮司さんのような方が、勉強ができて優秀というだけではなく、人として心のある人、理屈ではなくて、子供達のいろんな立場や環境に応じて対応出来る人を育成して、それぞれの学校に配置していく事ができればどんなに子供達が人として成長しているんだろうと思いいながら聞いていました。

宮司さんはとても頭の回転が速く、なかなか付いていけない、分かったような、分からないような、感じで、身体の内側でいろいろ聞いていたような感じでした。サラッと話されているのに、とても凄くて奥深く、今までだったら絶対に聞けない、神法のお話で、本当に秘儀中の秘儀の話なんです。もっとも沢山の人が聞いて欲しいと思えました。天皇家は何で男系でなければいけないのかとか。

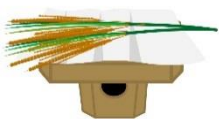
拍手についても、その方法等についても、拍手事態が秘儀で自分でも出来るとう云うことはその実践も兼ねて教えて頂きました。兎に角いろんな事、沢山沢山、ここに書ききれません。そしてサラッと話される事に、元に戻って整理する暇はなく、私の鈍い頭では出遅ればかりでした。前回の3回目と今回の4回目のお話は特に何回でも聞きたくて、ビデオを作られるという事で、品切れにならないように注文しましたら、早速御礼もキチンとして帰ってきました。

セミナー後の食事会にも始めて出席させて頂き、清水さんとも初めてお話しできた事は楽しかったです。宮司さんは一杯一杯全身でお話しされて、私たちはそのエネルギーを身体一杯頂きましたので、沢山補充されていました。「よかつたー！」昨日この原稿を随分書いた所で家に帰ると、お願いであったビデオが届いていて、夕飯後片づけ等全て終わって、ノンビリしながら2人で見ながら、その時十分に分からなかった私は、主人に教わりながら、タンタタ、タンタタと手を打つも調子が合わなくて、ズツコケていました、が、結構出来るようになりました。

宮司さんが映ったビデオという心強い味方が私にはあります。有難うございます。セミナー後の食事会の時お話しに出た「神代文字」のセミナーを、サラシヤンテさんや宮司さんのご都合の良い時に是非ご検討頂けたらと思います。有難うございました。

東豊祭宮司 大嘗祭セミナーについて

千葉 祐樹



平成から令和へと御代替わりが行われたこの2019年は、まさしく大嘗祭ともにあつた一年だった。また、このような年に、サラシヤンテイでの東宮司による大嘗祭セミナーをはじめ、全国各地で志をもった方々と一緒に大嘗祭に思いをよせることができたことは、今の時代に生きている一人の日本人として、この上なく幸せだったと心から思っている。

では、大嘗祭、自己大嘗祭という叡智を与えられた自分たちがなすべきことは何なのか？と考えるとき、我々一人一人が日本人だという自覚をもって、祓い、鎮魂、言霊を通じて産霊の力をはたかせ、自身の遠津御祖神とつながり、国津神、天津神をお迎えし、果ては造化三神もお迎えして、この令和という時代を平安清明な時代にしていくことではないだろうか、と思っている。

また、これまでの時代であれば天皇陛下にお任せしていたものを、我々自身もしっかりと自分たちの役割を担って実践していくこと、それが可能であり必要な時代になったということ、強く実感している。

では、改めて大嘗祭とは何なのか？を想うと、その人の意識の階層によって様々な見方は存在しているだろうが、東宮司のおっしゃっている「大嘗祭とは日本民族の叡智の結晶である。真人（かんつひじり）と云われ未来を知る40代天武天皇が残された日本民族が神へと向かう最大の魂の浄化装置である」ということが、実にその通りだと、もっとも腑に落ちる感じがする。

合わせて、大嘗祭だけでは大嘗祭は成立しえず、その前に鎮魂祭があって、天皇陛下の五魂（荒魂、和魂、幸魂、奇魂、そして精魂）が統合されなければ、天照大御神はお迎えできないこと、そして大嘗祭は決して終わりではなくそこから天皇行が始まることも欠かせない認識であると思う。そして、これらのことを学ぶことで我々日本人が一体何者で、何をなすべきかを思い出すことができること

もあわせて非常に重要だと思つ。

そして、126代の令和の時代は、これまでの時代とは全く違う、新しい始まりの時期に来ていることも、直感的に強く自覚している所でもある。一般社団法人の白川学館の七沢賢治代表がおっしゃっていたことだが、「人は25で進化する。5×25=125であり、この126代がこれまでを統合して新しい時代がはじまる」と。

そういった時代に、「このように皆さんと一緒して、本来の『平らけく、安らけく、清らけく、明らけく』の世界を創造していけることを非常にうれしく、楽しみに思っている。」

氣功についての私の経験談と峨眉伸展功

森下 泰行

私が気らしき物に触れたのは、四十年ほど前に太極拳を始めて、その中で氣功関係の事もやった様に思います。手の平を向かい合わせて氣を出す、磁石が反発する様な感じがするのが始めて氣を感じた経験かもしれません。

その後、好奇心に委せて、今では本のタイトルは忘れてしまいましたが、色々とお本を読んだり、教室に通

ったりしました。その中でも忘れられないのが西野流呼吸法の教室に行った時の経験です。



shutterstock.com • 75726982

当時西野先生がビデオなどで、氣で人を飛ばす

という様な事をされていたので、本当かなと思ひ、これは一度自分の身をもって体験してみたいと思ひ、幸い帝塚山で教室をされていたので、入門させて頂きました。

練習を始めて半年ほどした時に、講師の方が氣を出された様で、私は後ろに磁石の反発力で跳ね返された様に後ずさりしていきました。それで氣で人を飛ばす事が出来るという事を信じられました。

その当時は、とある武道を習っていて、相手と型練習をしている時に、突きを相手の中段に向けて突いたなら、相手に当たってもいけないのに、相手が後ろに2メートルほど飛んだという不思議な体験もしました。

私は割と淡泊な性格でそれ以上深く知ろうとも訓練を続けてひとかどの氣功師になろうという欲も無く、ああそんなものかという感じで過ごして来ましたが、どういう訳か仙道の世界で有名な李遠国氏にお会いしたり、峨眉山の養生学派のトツに若くしてなられた張明亮先生の合宿に参加させて頂いたり、日本では武道界以外では余り知られてはいない方なのですが、世界では名誉市民として二カ国で賞状を受けられ、台湾では太極拳のトップからも認められたほどの有名な宗家からも色々不思議な世界を垣間見させて頂きました。

後に、張先生の教えを受けられた市川先生にサラヤンティで教えて頂く機会に恵まれ、不思議な縁を感じています。今はまだ型を覚える段階ですが、それでも筋が伸びて身体が軽くなる気がします。すべての型を通して実習するには時間

が無いので、各型を一回ずつしたり、肩こりに効きそうな型をやったり、腎臓の辺りに親指を当てて腰を回転させる腰誇式という型をやったりしてます。

この型は身体の上下に効く様で、また腎臓の辺りがぼかぼかしたり仙腸関節も自然と調節される様な気がします。そう言う事でお気に入りの型になりました。

峨眉伸展功を実習する事で、背骨のゆがみもとれ、ゆがみがとれると神経根の圧迫もなくなり、内臓の働きも良くなり、健康になるものと思います。また、経絡の気の通りも良くなり、ツボの詰まりも取れる様です。

古代では当たり前だったものが、現代人は目に見える世界に偏りすぎて失ってしまった世界を、氣功をする事で取り戻す事が出来るのでは無いかと感じています。焦らず、執着せず、のんびりとこれからも続けていきたいと思えます。

時間がある限りサラシャンティにお邪魔して、市川先生から教えを受け、自分のやってる型が、自己流にならない様に、教室に参加させて頂いて矯正して頂くこうと思っています。

自彊術は、なぜ効くのか

講師 神田勝久

自彊術のことを、語る前に、人はなぜ病気になるのかについて考えてみたい。前述の「自彊術」に思

うところ」でも少し触れたが、人が病気になる大きな理由として、大脳が巨大である事と、それゆえの二足歩行という相互関係の、これら二点が挙げられると思う。

大脳が大きくなってしまったので、論理的思考が発達し、言葉と火が使えるようになった。それに加え二足歩行のため、手が器用に使えるようになり、ひいては我々人類は、壮大な文化を創造し、科学を探究するに至った。しかしながら、そんな動物としては不自然とも言える生き方の代償も大きい。戦争、犯罪、貧困、格差・・・などがそうである。

病気も人間社会にとつて大きな問題の一つと言える。人間社会が抱える数多くの問題は、我々人間には様々な形のストレスとなり病気をつくる。例えば、何らかの精神的(非物理的)ストレスによつて自律神経が乱れ、そのゆえ消化器系が損なわれ、胃潰瘍になるなどは、分かりやすい代表例である。他の多くの病気もまた、似た機序を辿っているのである。

二足歩行もまた、我々人間にとっては、大きな物理的ストレスを受けることとなり、心身に様々な不具合をもたらせやすい。例えば肩こり腰痛などは、その最たる例と言えよう。また、二足歩行は、加齢に伴う筋力低下で、どうしても姿勢やバランスが悪くなったり、動作も鈍くなりやすく、自律神経の乱れにも更に拍車がかかる。他の多くの整形外科疾患も、二足歩行との因果関係は否めない。

反して大脳の発達が人間と比べ大きく劣っている他の動物においては、文化や文明も持たず自然と調和した生き方で、したがって人間が抱える社会問題などは縁もゆかりも無い。動物界での病気の種類なども、人間の抱える膨大な数と比べると、極小である。野生動物に栄養学は無いが、肥満や糖尿病に苦しむシマウマなどはいないのである。二足歩行に起因する不具合は言うまでもなく無い。さて、幸福度が高いのは、人間か動物かをここで問うのは、本題からずれるので省いておく。

前置きが長くなったが、自彊術の話に移す。自彊術が良く効く理由を問われると、頭でっかちで二足歩行の、動物として不自然な生き方の我々人間が、自彊術を行うことで、身も心も自然な状態にリセットしてくれるから、だと思っている。

我々は人間という動物であり、動物は自然と調和して暮らすのが、最もふさわしい事は分かっていただけであろう。とは言え、我々の人間社会は情報などが複雑に溢れかえり、つい頭でっかちとなって生活せざるを得ない。したがって、定期的に心身を自然なあるべき状態に戻すリセットが必要となってくる。

自彊術の創作者中井房五郎氏は、少年期の四年間ほど、山奥でたった一人で生き延びた経験があることは、前述の通りである。そんな経験を通して、同氏は人間も本来動物としてあるべき自然な姿を、熟知していたと察する。中井氏はそれらの知識から、動物にとつては極自然な体を動かす方

法を用いて、自彊術という自己療術を、世に送り込むことができたのでないかと思う。

時折、体を動かすことは苦手なので、自彊術はちよつと……と言う人がおられるが、何も速く走れとか、より遠くまで飛べと言うような、いわゆる運動ではない。例えば画家でさえも、筋肉や関節を動かして筆を操るのである。自彊術はその延長上にあると捉えていただきたい。自彊術を習慣的に行うことで、絵の腕前も上がるかもしれないと、投稿者は本気で思っている。

二足歩行に起因する不具合の予防のために、深層筋を鍛え関節を柔らかくし、美しい姿勢や体型と良いパフォーマンスを、獲得維持することも、自彊術の大きな役割である。そして、今や失いつつある、動物的感覚や本能的行動、あるいはインスピレーションや閃き、それらをも再獲得することをも、大いに期待できるのである。

自律神経失調症などにも、自彊術は非常に良く効くのであるが、詳しくは、投稿者が下手に述べなくとも、池見西次郎著「自彊術ハンドブック」を、ぜひお読みいただきたい。池見氏は九州大学で日本で最初に心療内科を開いた、心身医学専門の医師であった(1999年没)。池見氏自ら自律神経失調症などで長年苦しみ、それを自彊術で克服した経験から、自らの臨床にも、自彊術を一本の大きな柱として、取り入れていた。

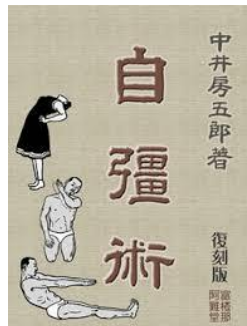
昨今、自彊術を医療現場の臨床に取り入れているようなことは、心療内科も含めあらゆる医療機

関においても、残念ながら噂すら聞いた事がない。池見氏はきつとあの世で悲しんでいるに違いない。本当に残念である。

最後に、同書にある自彊術の効果のほどを、引用させていただき、このたびは筆を置きたいと思う。以下のデータは、若干古いが1985年北京国際運動医学学会議で、内閣府所管(公社)自彊術普及会が発表したものである。自彊術の効果率を各疾患別100名で示したものである。

ひざ関節症：68%
頸・肩・腕症：62%
慢性胃腸炎：72%
糖尿病：62%
狭心症：79%
腰痛症：76%
頭痛症：76%
高血圧症：71%
肝炎・胆石：67%
自律神経失調症：70%
慢性気管支炎・喘息：68%
アレルギー性疾患：66%

他、癌などに対しても、症例数は上記に比べ少ないが、概ね効果があったとの報告がされている。このたびも、最後までお読みいただき、心から感謝を述べたい。次回もまた機会があれば、投稿させていただきたいと思っている。また、「質問や意見などは、いつでも何なりと hidomo@gmail.com までお伝えいただきたい。」



編集後記

清水 和子

医師として、病気を治すためにアフガニスタンに行かれたのに、飲み水などがなかったため、子供たちが命を亡くすのを見て、まず、飲み水、食べ物を確保しなければということで、福岡県と同じくらいの大きさの砂漠を緑地、農地に変えたペシャワール会の中村哲さんが銃弾に倒れました。

ずっと、ペシャワール会の活動に注目し、中村哲さんを尊敬していた私には本当にショックでした。ご家族や地元の中村氏と一緒に土木事業、灌漑事業をしていた人々などにとっては大変な喪失だと思います。

中村哲氏のこれまでの活動を示す映像が友人のメールで配信されました。ご存知ない方はどうぞ、ご覧ください。

https://www.jica.go.jp/topics/2018/2019_0205_01.html

水路を創るとき、日本中を見て回り、良い方法がないか探されたのです。そして、地元の福岡に江戸時代に考えられた山田堰という方法があることを知り採用。竹で編んだ籠に石をいれて土手を築き、さらに、柳を植えるとその根が籠にまきつき、土手を補強するという別の方法も取り入れています。

告別式のあと、中村氏のご長男が、父の警護をしたり、車の運転をしたりされていた方々も命を落とされ、ご家族方の哀しみはいかばかりかと思うと申し訳ないと話されたとき、さすがに中村哲氏の息子さんだと感銘を受けました。

合掌